

「スペイン語学習のめやす」策定の試み

大森 洋子

1. はじめに

本論文の目的は、スペイン語教育研究会 (GIDE) ですすめられているプロジェクト「スペイン語学習のめやす」についてそのプロジェクトの目的、作業内容、現在までの学習のめやすの内容を紹介することにより、完成に向けての検討課題を明確にすることである。

「スペイン語学習のめやす」(以下「学習のめやす」)策定の試みは、スペイン語教育研究会の活動から生まれたものである。スペイン語教育研究会は、2002年6月に発足し、2003年4月より正式に会としての活動を開始した。発足当初はメンバーそれぞれの教室での実践の報告、文法指導における問題点、文法項目の指導順などを報告しあうかたちで行われていたが、次第にスペイン語教育に関する論文の検討、さらに語彙研究など具体的な問題の検討なども行われていった。そのような活動のなかでヨーロッパ言語共通参照枠(以下 CEFR)についての学習を始めたのが2006年頃であった。CEFRについての理解を深めるなかで、日本の学習者、とりわけ第2外国語のスペイン語を学習するなかで CEFR によるレベル分けでどの程度まで到達できるのか、A1 というレベル設定が初級から始める学習者にとって適切なレベルなのか等について問題提起がなされた。2007年12月、明海大学で行われたセミナー(テーマ:日本の外国語教育における学習スタンダードのあり方)で中国語の学習のめやす作成の取り組みについて知る機会を得た。これらの研究をきっかけにスペイン語についても日本人の学生、特に第2外国語として学習する学生に特化したかたちの「学習のめやす」を作成したらいいのではないかということでプロジェクトの実現へ向けて準備が開始された。2009年度より科学研究費の援助を受けたプロジェクト(基盤研究(C))となっている。

2. 「学習のめやす」策定の意味

2.1 外国語教育をめぐる

欧州評議会が 2001 年に出版した CEFR は、複言語、複文化能力をそなえた人間を育てるための言語教育という観点から、言語を使って何が出来るかを明示したレベル別の能力到達指標を提案した。これを受けて、日本の英語教育においても新しい英語能力到達指標が提案されている。

日本の英語教育界では CEFR の応用を目的としたプロジェクトを実施し、CEFR-J という日本の英語教育の実態にあわせた新しい能力記述文、到達度枠組みに基づく能力到達指標を提示した。CEFR の記述が 6 レベルであるのに対し、日本の英語学習者の大半のレベルである A レベルについて、Pre-A1 を設定、A1、A2 については 3 段階、B レベルでは B1、B2 を 2 段階に細分化し、学習者の学習の到達度を細かく測れるよう工夫されている。

さらに、能力記述文の整備だけでなく、それぞれのレベルの学習者の指導例(文法、語彙、コミュニケーションの側面から)が研究され提示されている。(参照:新しい英語能力到達度指標 CEFR-J 公開シンポジウム、投野由起夫 科研プロジェクト 2012)¹

一方、「外国語学習のめやす」はグローバル社会を生きるために必要な資質、能力を養成するための外国語教育をめざし、3 領域(言語・文化・グローバル社会)×3 能力(わかる・できる・つながる)+3 連携(学習者の関心や意欲など・他教科や既習内容・教室外の人、モノ、情報)というキーコンセプトをもとに、15 の話題分野について 4 レベルの能力記述文を掲げ、それに基づく単元例等を紹介し、目標達成のためにはどのような授業づくりが可能かを例示している。(参照:外国語学習のめやす一高等学校の中国語と韓国語教育からの提言、国際文化フォーラム 2013)

以上のように外国語教育をグローバル社会に対応できる人材の養成の場としてとらえることにより、日本の外国語教育に大きな変革の流れをもたらしている。学習指針を明確化するとともに、自律的な学習者を育て、総合的コミュニケーション能力の向上を図ろうとする試みが、実践段階に入り新たな局面を迎えていると言えるだろう。

2.2 スペイン語教育の現場から

大学における第 2 外国語としてのスペイン語教育も大きく変化してきている。知

¹ この他に、日本型の CEFR の開発を目指したプロジェクトがある(川成美香:外国語コミュニケーション育成のための日本型 CEFR 開発の妥当性の検証)。

識としてスペイン語を知るという傾向からコミュニケーションの手段としてのスペイン語、文化理解のためのスペイン語を身につけることが強く意識されるようになった。高校でのスペイン語教育、短期留学プログラムの充実などから個人の学習到達レベルも様々となり、初級でどこまで、何を教えるのがよいのかというのが、教師の大きな関心の一つとなった。

2.2.1 教員からみた「学習のめやす」

言語教育の目標が、単に暗記のみに基づくような言語構造の把握から、言語が実際にコミュニケーションする際の手段であるという立場に立って教育することになると、言語教育のカリキュラムも大きく変化する。学習者が社会のなかで活動する一人の人間として個々に必要とするコミュニケーション能力を培うことが目的とされれば、当然教室での活動もその目的の達成を目的とした物になる。その一方で、限られた授業時間で複数の教員が伊凸のクラスを担当することが多いという環境では、効率的な授業を行うための共通シラバスが必要である。例えば、カリキュラム、シラバス案作成の時に、具体的な目標を設定し学習内容を決定して教材の準備に入る。ある具体的なコンテキストとコミュニケーションの目標を設定することで、それに必要な言語機能、文法項目等を扱う教材の用意が可能になる。また目標を設定することで、何を評価するのかをはっきりと示すことができる。

さらに、この学習到達指標に基づいてどのレベルで何を教えるか、学習者が関心を持つ特定のテーマでどのようなアクティビティを取り入れるのか、その実行のためにどのような学習項目を盛り込むのかなどを考える際に参照できる指針を示すことになる。また、学習目標を明示的にすることで、評価の指針を提示することが可能となり、これにより学習者にも明確に評価の基準を示すことができる。

「学習のめやす」に基づいたカリキュラム、シラバス、具体的な授業案作り、評価の方法を示すことが可能となり、教員研修、養成の際に利用することが利用することもできるだろう。

2.2.2 学習者からみた「学習のめやす」

第 1 に、学習者のバックグラウンドが多様となり、スペイン語でも大学までにある程度学習を積んでいる学習者、一定の運用能力を身につけた学習者がいることが

観察されている。このような状況では、学習する機関が変化しても、それまでに学習した内容とレベルに応じたクラスでの学習継続ができるような方法を考えていく必要がある。「学習のめやす」は学習者にとっては、自分が学習するコース、クラスの選定の際の一つの参考資料として機能するだろう。

さらに、それぞれのテーマに盛り込まれた学習内容ごとに客観的な自己評価の指針を盛り込むことで、自分自身の学習到達度チェックとして活用することも可能となる。

2.2.3 「学習のめやす」の目的

大学の外国語教育をめぐる現況では、時間不足、多人数クラスの存在、文法習得への偏り、さらに学習者の外国語学習に臨む姿勢の変化といった問題など、改善のためにはかなりの努力が必要と思われる。しかしながら GIDE が 2009 年 4 月に実施したアンケート結果では、学習者は学習開始時には、文化的な要素への興味などの具体的なモチベーション、さらにコミュニケーション能力を身につけたいという明確な目的を持っていることが明らかになった。(GIDE, 2011 参照)

従って、我々の「学習のめやす」は、学習者が大学生としての知的好奇心、モチベーションを維持しながら、初級レベルの学習を進めることができるようにすることを目的とし、具体的なコミュニケーションの各テーマに基づいて実際のコンテキストの中で文法や語彙を習得することを可能にし、文化理解を深めるための方策としての一つの提案ととらえられる。

3. 作業

まず、対象として大学第 2 外国語の初級レベル、週 2 時間の授業を 1 年受けた程度の学生を想定し、テーマ選定から始まった。テーマ選定については、「高等学校の中国語と朝鮮韓国語の学習のめやす」を参考にしながら、学習者の興味を考慮して、12 のテーマ(後述)を決定した。先行研究等に基づいて、Objetivos específicos (特定の目標): テーマごとにどのようなことができるようになるのかを記述、Muestras de lengua (言語例): どのような言語表現があるかの例示、Contenidos gramaticales (文法内容): どのような文法項目が想定されるのかの例示、Contenidos léxicos (語彙内容): どのような語彙項目が必要なのかの例示、Contenidos culturales (文化内容):

どのような文化項目が考えられるのかの例示、Contenidos pragmáticos (語用論的内容):どんな語用論的項目に注意したいかの記述の各欄を設けて作業を行った。

(GIDE, 2009)

これらの項目の記述については、試行錯誤が繰り返され、最終的には、特定の目標はコミュニケーション目標とし、テーマについて最終的にはどのような活動ができるかについて、「外国語学習のめやす」になって、対人モード、解釈モード、提示モード別に示した。表では、その活動に必要な言語機能、文法項目、語彙項目、言語例を記入することになった。さらに、レベル1についての総合的な目標をそれぞれのモードごとにそれに関わる技能について明示した。特に、文化的項目の理解、グローバル社会に適応できる人材教育としての言語教育の側面を重視することが大学における言語教育の一つの役割であることも考慮し、表の左に置くことでその重要性をアピールしたいと考えているが、今後完成にむけてさらなる検討が必要と思われる。

4. 「学習のめやす」:内容紹介

「学習のめやす」は、2 レベル、12 テーマに分かれ、それぞれコミュニケーション目標が示されている。さらにそのコミュニケーション目標を達成するために必要な社会文化(および語用論上の)項目、言語機能、語彙内容、文法内容に分かれている²。

12 テーマは、1. 自分、家族、友達を紹介する 2. 日常生活 3. 都市と交通 4. 旅行 5. 買い物 6. 食べ物、飲み物 7. 社会生活 8. 余暇、自由時間 9. 心と体 10. 天候と気候 11. 家 12. 日本とスペイン語を話す国々 である。

コミュニケーション目標は、テーマごとの教育、学習目標である。対人モード、解釈モード、提示モード別に明示した。

その目標を達成するための社会文化(および語用論上の)項目、言語機能、語彙項目、文法項目、言語例の順に記述している。

表の記載順については、文化的内容を重視していることを示す、文法・語彙をコンテキストと結びつけて提示する、言語で何をするのかを明らかにするという3つの目的から上記のように決められた。以下にテーマ「8. 余暇、自由時間」について例示する³。

² 学習のめやすの記述言語はスペイン語である。しかしながら、学習者が学習到達レベルをチェックする機能を与えるためには日本語版も必要であろう。

³ 紙幅の都合上一部のみを掲載する。テーマ8の全貌は補遺参照のこと。

コミュニケーション目標

このテーマを終える際には:

対人モード:

- ・自分の好み、趣味について言ったり、尋ねたりすることができる
- ・余暇の過ごし方を述べたり、質問したりできる、など

解釈モード:

- ・相手の計画、約束、著名な場所、催し物についての情報を聞いて理解できる
- ・スピーカー等のアナウンスを理解できる など
- ・簡単な広告や時刻表等を読んで理解できる

提示モード:

- ・学習したテーマについて事前に用意した簡単な内容を発表できる など

社会文化(および語用論的)項目:

- ・スペイン語圏で盛んなスポーツ など
- ・有名な映画、時間割、家事の分担 など
- ・誘いを断る方法、婉曲的な表現 など

言語機能項目:

- ・情報を求める
- ・好みを表す
- ・なにかを知っているかどうか尋ねる
- ・好み、嗜好について表現したり、質問したりする など

語彙項目:

- ・好みと余暇: *hacer deporte, ir a un concierto (un partido de fútbol, una exposición), ir al teatro (al cine), ir de compras...*
- ・時間と期間: *la una, las dos.../ la mañana, la tarde...*

文法項目:

- ・直説法現在: 活用と用法、規則活用と不規則活用
- ・疑問文
- ・理由を表す文

言語例:

1. **Salgo los fines de semana.**
2. **¿Cuándo limpias normalmente?**
3. **Voy al cine este fin de semana.**

5. 今後の作業と課題:完成にむけて

現在のところ「学習のめやす」の表部分がかかなり整備されてきている。表に関する今後の作業は、テーマごとの記述の統一と社会文化項目欄に記述されている項目を社会文化項目と混在している語用論的記述を整理し、より分かりやすい記述を目指すことである。

一方、これらの表をもとにどのようなクラス運営ができるかを例示するためのアクティビティの提案も必要である。社会文化項目、言語機能に重点をおくリアルなコンテキストでコミュニケーション活動を目指すこと、大学生としての知的関心を刺激し、グローバル社会に適応していく人材を養成する一つの場としての言語教育を模索すること、などを考慮に入れた上で、いくつかのアクティビティを考案していく予定である。

さらに、これらの活動を通じてどのようにそれらの成果を評価するのかという点も大きな課題である。アクティビティごとの評価の指針を示すこと、およびテーマごとに掲げた言語機能、語彙項目、文法項目について評価の基準、評価例を示すことにより、教員の学習者に対する評価ばかりでなく学習者の自己評価につながっていくはずである。

最後に残っているのが、12 のテーマについてのレベル2の記載であるが、そのためには我々にとって「初級」あるいは「中級」が何を指すのか、あらためて問い直す必要がある。

(明治学院大学)

参考文献

- 公益財団法人国際文化フォーラム編 (2007) 『高等学校の中国語と韓国朝鮮語:学習のめやす(試行版)』国際文化フォーラム.
- 公益財団法人国際文化フォーラム編 (2013) 『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』国際文化フォーラム.
- 吉島茂, 大島理枝ほか訳・編(2004) 外国語教育 II 外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠. 朝日出版社.
- Díaz Rodríguez, Lourdes. et al. (2011). *Guía de contenidos lingüísticos por niveles de español. Según el marco común europeo de referencia para la enseñanza de lenguas*. Editorial Octaedro.
- GIDE (2009). “Propuesta de un modelo de contenidos para el estudio del español enfocado al alumnado universitario japonés de segunda lengua extranjera”. *Lingüística Hispánica Vol.31*, pp.163-164. Círculo de Lingüística Hispánica de

Kansai, Japón.

GIDE (2011). *Cuestionario sobre análisis de necesidades aplicado a los alumnos universitarios japoneses de español –Informe–*. <http://gidetokio.curhost.com/>.

Instituto Cervantes (2007) *Plan curricular del Instituto Cervantes*. Madrid: Biblioteca Nueva.

Moreno, Concha y Sae Ochiai (2013). Elaboración de un modelo de contenidos para la enseñanza de la lengua española en Japón. Congreso Internacional de ASELE 発表.

Towards Establishing a Standard for Spanish Learning in Japan — Project Report

Hiroko OMORI

In this article we describe a project undertaken by a group of Spanish teachers. We explain the background and reasons for the project, as well as give examples of the proposed standards.

補遺: Tema 8: Tiempo libre

<p>Al terminar este tema el alumno será capaz de...</p>			
<p>Actuar de un modo interpersonal para:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● hablar de <ul style="list-style-type: none"> ○ sus gustos y aficiones y preguntar por los del interlocutor. ○ la forma en que pasa su tiempo libre y preguntar cómo lo hace el interlocutor. ○ planes, proponiéndolos; expresando la intención de hacer algo e invitar a su interlocutor; aceptando los planes que se le proponen o rechazándolos justificando por qué. ○ citas: quedar con alguien; decidir la hora y el lugar. ○ lugares conocidos y preguntar por los que conoce el interlocutor. ○ espectáculos dando, preguntando y recibiendo información ● escribir <ul style="list-style-type: none"> ○ un correo o una carta proponiendo planes, invitando a un espectáculo, dando información sencilla sobre algún espectáculo. 	<p>Actuar de un modo interpretativo para:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>escuchar</u> y entender la información que le da su interlocutor sobre <ul style="list-style-type: none"> ○ planes ○ citas ○ lugares conocidos ○ espectáculos ○ información dada por megafonía ● leer y entender <ul style="list-style-type: none"> ○ anuncios sencillos ○ horarios ○ información sobre espectáculos 	<p>Actuar de un modo expositivo para:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>presentar</u> en público un trabajo sencillo previamente preparado sobre los temas estudiados ● cantar canciones trabajadas previamente en clase ● hacer sencillas representaciones de diálogos trabajados en clase ● escribir <ul style="list-style-type: none"> ○ textos sencillos expresando su opinión sobre algo visto previamente ○ descripciones de lugares 	

Contenidos socioculturales	Contenidos funcionales	Contenidos léxicos	Contenidos gramaticales
<p>Museos en España e Hispanoamérica</p> <p>Deportes más practicados en el mundo hispano</p> <p>Películas famosas</p> <p>Horarios</p> <p>Reparto de las tareas domésticas</p> <p>Contenidos pragmáticos: Atenuación del rechazo</p> <p>Comprobación de la comprensión</p> <p>Atenuación de la amenaza en afirmaciones rotundas</p>	<p>Pedir y dar información sobre actividades de tiempo libre (1, 2)</p> <p>sobre espectáculos (5, 6)</p> <p>Preguntar por el conocimiento de algo (7, 8)</p> <p>Expresar y preguntar por gustos y preferencias (9, 10)</p> <p>Manifestar convergencia y divergencia (12, 13)</p> <p>Hablar de planes e intenciones (3, 4)</p> <p>Proponer (11, 14)</p> <p>Aceptar y rechazar (12, 13, 15, 16)</p> <p>Fijar una cita (17, 18)</p>	<p>Aficiones y ocio: <i>hacer deporte, ir a un concierto (un partido de fútbol, una exposición), ir al teatro (al cine), ir de compras, pasear, leer, nadar, correr, cantar, bailar, salir, cocinar, descansar, ver una película (la televisión), jugar al tenis (al fútbol, al béisbol...), escuchar música, viajar... / deportes, cine, películas, lectura, internet...</i></p> <p>Tareas domésticas: <i>hacer la limpieza, lavar la ropa...</i></p> <p>Las horas y los períodos de tiempo: <i>la una, las dos... / la mañana, la tarde...</i></p> <p>Lugares de diversión: <i>museo, cine, teatro, piscina, gimnasio, estadio, campo, centro, restaurante, bar...</i></p> <p>Duración del tiempo: <i>hoy, mañana, hora, día, mes, fin de semana, vacaciones...</i></p>	<p>Morfología y usos del presente de indicativo: regulares e irregulares</p> <p>Oraciones interrogativas</p> <p>Oraciones causales</p> <p>Verbos con la estructura de <i>gustar</i></p> <p>Perífrasis verbales de infinitivo: <i>ir a; poder; tener que</i></p>
<p>Muestras de lengua</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Salgo los fines de semana. 2. ¿Cuándo limpias normalmente? 3. Voy al cine este fin de semana. 4. En marzo vamos a ir a Hakone. 5. ¿Dónde / A qué hora es el concierto? 6. Es en el teatro Cervantes a las siete. 7. ¿Sabes dónde ponen esa película? 8. ¿Sabes si todavía ponen esa película? 9. A mi amigo le gustan los deportes / Me gusta leer libros. 10. No me gusta nada viajar. 11. ¿Qué te parece si vamos a Takao-san este fin de semana? 12. Me parece bien. 13. A mí me parece genial. 14. ¿Por qué no vamos al cine? 15. Es que no tengo tiempo. 16. No puedo. Es que tengo que estudiar. 17. ¿Cuándo / Dónde quedamos? ¿Qué tal en Shinkuju a las ocho? 			